

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 2 0 0 8 年 5 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 5 月 3 0 日

日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

5月の全産業合計の業況DIは 52.9と、5年ぶりにマイナス50台(50.4)を記録した前月からさらに悪化。特に建設業の業況DIは 65.0と、依然として厳しい状況が続いている。

全産業合計の仕入単価DIは、14カ月連続で悪化し1991年5月の同DI調査開始以来、最悪の水準を記録した前月からほぼ横ばいで推移(55.9 55.7)。一方、売上、採算、資金繰り、従業員DIは前月から悪化。

引き続き、原油・原材料価格の高騰による採算の悪化や、燃料費や食料品価格上昇の影響から、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

こうした悪影響に伴い、倒産・廃業や人員削減など厳しい状況を訴える声も寄せられている。

L O B O 調 査 は、地 域 に お け る 毎 月 の 景 気 動 向 を 調 査 す る も の で あ り、当 該 月 の 景 況 に 係 る 調 査 結 果 を 最 も 早 く 集 計 ・ 公 表 し て お り ま す (1 9 8 9 年 4 月 調 査 開 始)。

調 査 期 間 : 2 0 0 8 年 5 月 1 9 日 ~ 2 3 日

調 査 対 象 : 全 国 の 4 0 4 商 工 会 議 所 が 2 5 8 0 業 種 組 合 な ど に ヒ ア リ ン グ

(内 訳) 建 設 業 3 8 0 製 造 業 6 1 7 卸 売 業 2 3 5

小 売 業 7 3 7 サ ー ビ ス 業 6 1 1

調 査 項 目 : 今 月 の 業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど に つ い て の 状 況 (D I 値 を 集 計) お よ び 業 界 と し て 当 面 す る 問 題 な ど

D I 値 (景 況 判 断 指 数) に つ い て

D I 値 は、業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど の 各 項 目 に つ い て の、判 断 の 状 況 を 表 す。ゼ ロ を 基 準 と し て、プ ラ ス の 値 で 景 気 の 上 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 し、マ イ ナ ス の 値 で 景 気 の 下 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 す。し た が っ て、売 上 高 な ど の 実 数 値 の 上 昇 率 を 示 す も の で は な く、強 気 ・ 弱 気 な ど の 景 況 感 の 相 対 的 な 広 が り を 意 味 す る。

D I = (増 加 ・ 好 転 な ど の 回 答 割 合) - (減 少 ・ 悪 化 な ど の 回 答 割 合)
業 況 ・ 採 算 : (好 転) - (悪 化) 売 上 : (増 加) - (減 少)

【 本 件 担 当 】 産 業 政 策 部 T E L : 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6

E - M a i l : s a n g y o @ j c c i . o r . j p

本 調 査 結 果 は 日 商 ホ ー ム ペ ー ジ (<http://www.jccci.or.jp>) で も ご 覧 に な れ ま す。

【2008年5月調査結果の概要】

業況はさらに厳しい状況、仕入単価D Iも低水準で推移

5月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、5年ぶりにマイナス50台を記録した前月水準（50.4）よりマイナス幅が2.5ポイント拡大し52.9と、さらに厳しい状況となった。

産業別の業況D Iは、建設、製造、サービスでマイナス幅が拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調（鉄鋼、機械関係の受注増加等）、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

- ・「公共工事の削減に伴う受注減少の影響により、今後も倒産が発生する見込み」（一般工事業）
- ・「道路特定財源の国会議決遅れの影響により、工事の発注が例年に比べ遅く、売上は予想以上に悪化」（一般工事業）
- ・「民間工事の競争激化に伴う受注価格の低下により、収益は減少」（建築工事業）

【製造業】

- ・「仕入先から材料・部品等の値上げ要求が続く一方、受注の増加は見込めず、収益確保が困難な状況」（金属加工機械製造業）
- ・「原材料価格の高騰に対し、販売先からはコストダウンの要請があり採算が悪化」（電気機器製造業）
- ・「小麦・穀物価格が上昇基調であり、先行きが不安」（他の食料品製造業）

【卸売業】

- ・「仕入価格の上昇が続いているが、売上悪化の懸念から販売価格への転嫁は難しい状況」（食料・飲料卸売業）
- ・「食料品価格の上昇に加え、原油価格の高騰により物流コストが上昇し、採算が悪化」（各種商品卸売業）
- ・「商品の動きが鈍化し、仕入の抑制と在庫の軽減に努めるなど、先行きが不透明な状況」（衣服・日用品卸売業）

【小売業】

- ・「食料品を中心に各商品の値上げが相次ぎ、更なる採算の悪化を懸念」（百貨店）
- ・「昨年同月に比べ来客数・売上ともに減少し、閉店も発生」（商店街）
- ・「原材料価格高騰の影響により値上げ商品が増加し、売上は減少傾向」（その他の小売業）

【サービス業】

- ・「仕入価格の高騰分を価格転嫁する店が見られる一方、売上の減少により廃業も増加するなど、厳しい状況」（食堂・レストラン）
- ・「軽油価格の高騰分を運賃に転嫁できず、経営を圧迫」（運送業）
- ・「ゴールデンウィーク中の宿泊客数が昨年に比べ減少する一方、仕入価格の高騰により採算は悪化」（旅館）

全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.9ポイント拡大して41.5となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で引き続き低水準で推移し、他の4業種は拡大した。

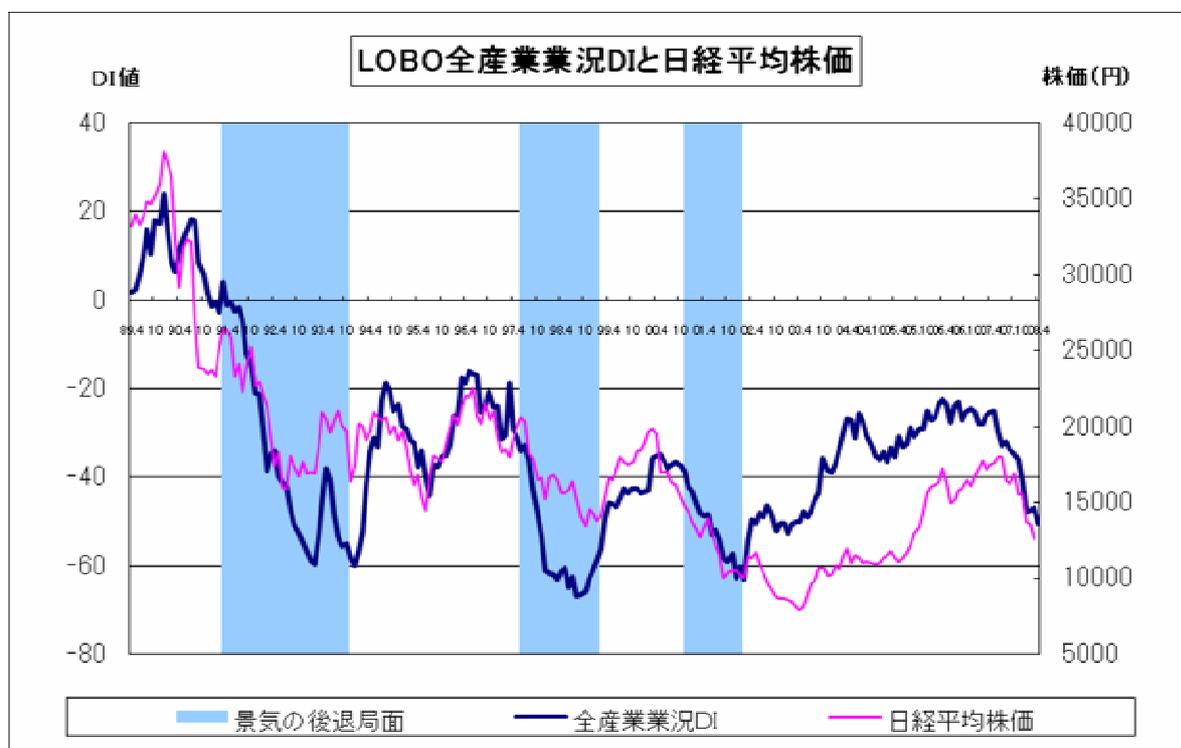
全産業合計の採算DIは、マイナス幅が3.3ポイント拡大して50.4となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売では低水準で推移しているものの、他の4業種は拡大した。

全産業合計の資金繰りDIは、マイナス幅が0.7ポイント拡大して31.0となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造、サービスで拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

全産業合計の仕入単価DIは55.7と、調査開始以来最悪の水準であった前月からほぼ横ばい。産業別にみると、仕入単価の上昇感は、製造、小売、サービスは低水準で推移する一方、他の2業種では強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは6.5と、過剰感は3カ月ぶりに強まった。産業別にみても、DI値は小売で不足感が弱まり、他の4業種で過剰感が強まった。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が48.2と、昨年同時期の先行き見通し(23.2)に比べて25ポイントも悪化している。産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、17ポイント以上マイナス幅が拡大している。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、大幅に悪化した前月水準（50.4）よりマイナス幅が2.5ポイント拡大し、52.9となった。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造、サービスで拡大、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が48.2と、昨年同時期の先行き見通し（23.2）に比べて25ポイントも悪化している。

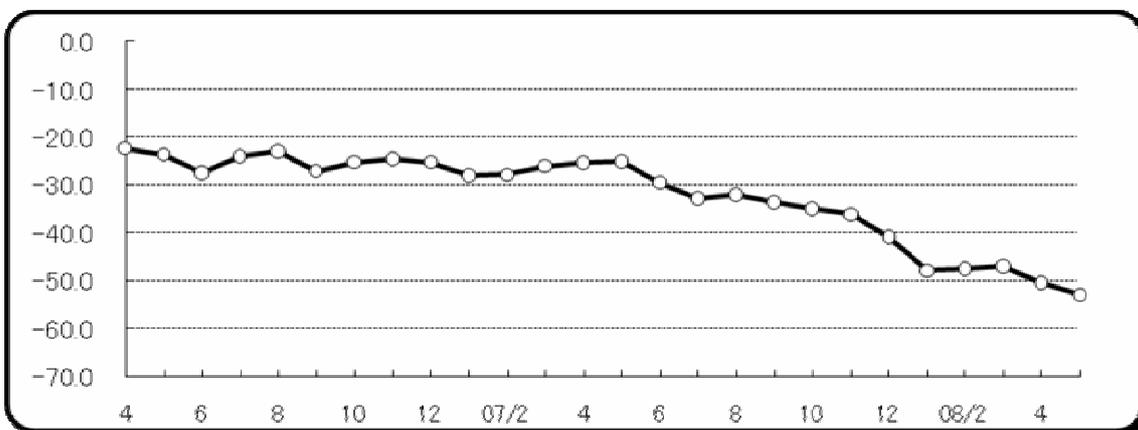
産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、17ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	40.8	47.9	47.5	46.9	50.4	52.9	48.2 (23.2)
建設	57.3	58.1	57.7	59.4	64.6	65.0	61.1 (40.3)
製造	34.9	40.4	40.3	41.3	43.1	49.0	46.7 (20.4)
卸売	44.9	55.6	57.7	47.3	53.6	49.1	41.1 (23.5)
小売	39.0	49.2	49.1	48.4	52.8	52.6	46.9 (17.9)
サービス	37.1	44.5	42.7	43.3	44.4	50.6	45.8 (21.1)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年5月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が2.9ポイント拡大して41.5となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で引き続き低水準で推移し、他の4業種は拡大した。

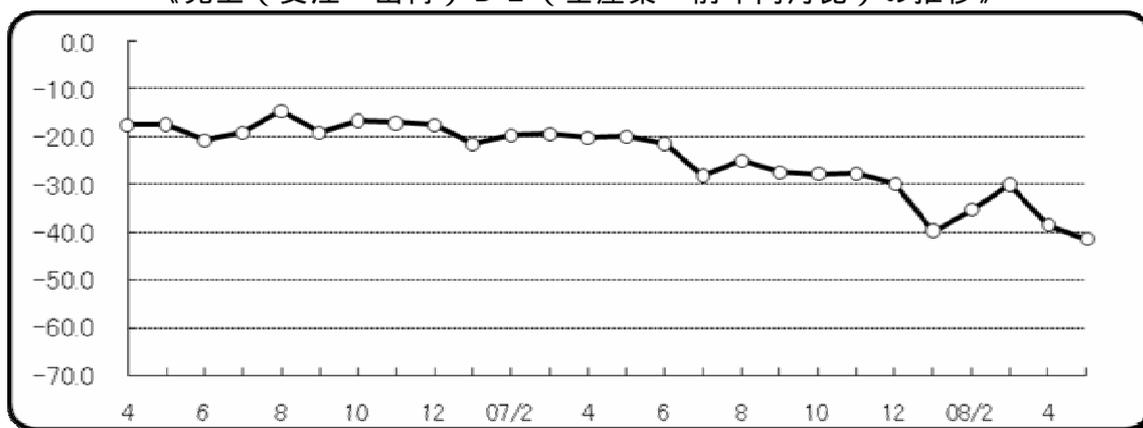
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が37.1と、昨年同時期の先行き見通し(16.0)に比べて約21ポイントも悪化している。

産業別にみても、昨年同時期の先行き見通しに対し、全ての業種で悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	29.9	39.8	35.4	30.1	38.6	41.5	37.1 (16.0)
建設	51.6	55.7	51.9	53.0	54.3	58.6	50.8 (31.5)
製造	19.1	24.0	20.3	19.5	25.5	29.9	32.2 (11.3)
卸売	39.1	52.0	47.0	29.3	42.1	33.1	20.9 (16.0)
小売	29.8	43.9	35.2	26.8	42.0	46.5	39.7 (12.1)
サービス	23.7	36.6	36.9	31.5	36.4	39.9	36.7 (15.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が3.3ポイント拡大して50.4となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売では低水準で推移しているものの、他の4業種は拡大した。

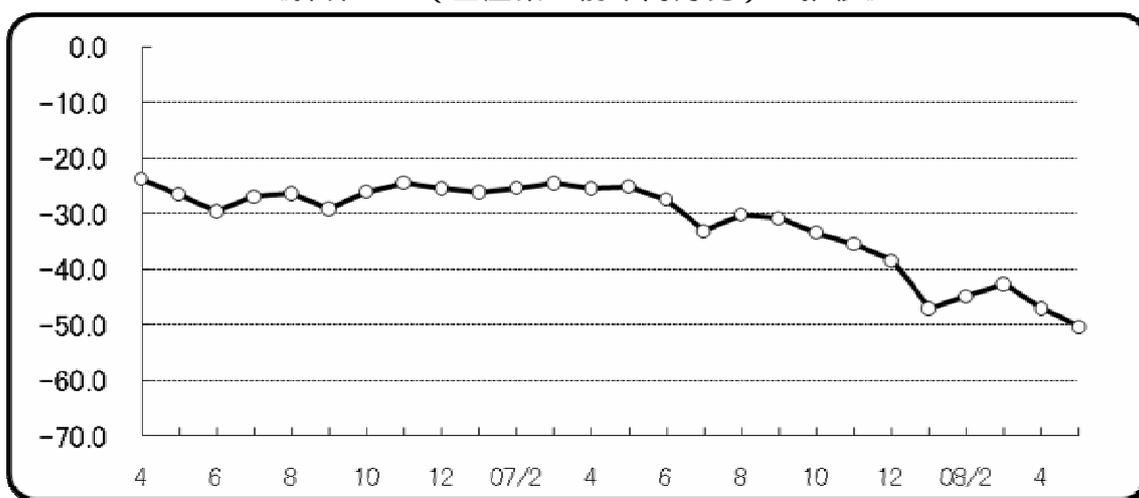
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が45.7と、昨年同時期の先行き見通し(20.9)に比べて25ポイント近く悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で14ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	38.5	47.1	44.9	42.8	47.1	50.4	45.7 (20.9)
建設	56.7	63.0	57.7	62.8	61.4	63.5	58.4 (43.8)
製造	37.0	43.8	40.3	42.1	46.1	50.6	46.0 (19.7)
卸売	40.4	43.3	53.3	44.0	41.7	39.9	31.3 (14.2)
小売	34.3	44.4	40.9	34.2	42.7	46.9	43.5 (12.6)
サービス	32.6	45.3	43.2	41.1	45.9	50.0	45.3 (20.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	24.9	28.5	31.0	28.4	30.3	31.0	31.7 (18.1)
建設	38.3	45.1	48.7	46.3	43.5	47.6	48.4 (32.0)
製造	23.3	25.1	25.0	25.3	25.3	31.3	30.5 (14.7)
卸売	24.3	24.8	27.3	20.9	28.8	24.3	24.2 (14.2)
小売	20.7	27.6	30.2	25.5	30.0	24.9	25.6 (15.2)
サービス	23.0	23.5	28.9	26.9	27.7	29.4	31.8 (17.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は2カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造、サービスで拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	44.4	48.4	49.8	51.6	55.9	55.7	49.8 (24.0)
建設	53.1	59.0	56.3	59.2	67.2	70.1	60.5 (32.3)
製造	57.5	60.7	59.0	60.5	63.5	63.2	54.6 (37.3)
卸売	34.0	31.1	42.0	47.3	44.1	45.7	39.9 (17.9)
小売	34.1	38.7	41.7	42.7	49.0	48.2	45.7 (14.0)
サービス	41.4	46.9	48.6	49.7	53.4	51.2	46.5 (19.4)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は、14カ月連続で悪化し調査開始以来最悪の水準を記録した前月からほぼ横ばい。産業別にみると、仕入単価の上昇感、製造、小売、サービスは低水準で推移する一方、他の2業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	2.2	4.0	4.1	3.8	3.8	6.5	7.3 (1.4)
建設	18.0	15.9	20.3	22.2	20.9	21.3	22.9 (15.4)
製造	1.0	2.2	2.2	2.0	3.8	6.2	5.8 (0.8)
卸売	5.1	6.6	6.0	7.4	6.6	6.7	8.0 (8.0)
小売	1.5	0.0	1.7	3.9	2.0	0.6	1.5 (4.2)
サービス	1.1	2.2	2.1	2.5	1.6	5.4	5.2 (1.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは 6.5と、過剰感は3カ月ぶりに強まった。産業別にみても、D I値は小売で不足感が弱まり、他の4業種で過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰感が横ばい、製造、小売、サービスで過剰感に転じ、建設は過剰感が強まる見通し。

【2008年5月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化に伴う先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「今年度の公共事業予算が激減しているため、厳しい年となる見込み」(甲府・建築工事業)とのコメント、製造からは、「6月より印刷用紙の15%以上の値上げが予定されるなど、非常に厳しい状況」(佐賀・印刷業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「競合他社が大型店を出店予定のため、売上は減少となる見込み」(倉敷・百貨店)、「原油・原材料価格の高騰は、お中元ギフトの価格にも影響しており、受注件数の減少を懸念」(盛岡・百貨店)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「原油・原材料価格の高騰が著しく、収益が大幅に減少」(福岡・建築工事業)とのコメント、製造からは、「高止まりしていた鋼材価格が再高騰しており、採算の悪化を懸念」(相模原・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「チラシや包装紙・袋類の値上げに伴う経費の増加により、採算が悪化」(山形・百貨店)、「食材やガソリンなど諸経費の高騰が続き、厳しい状況」(四国中央・他の一般飲食店)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「衣料を中心に、売上額、販売数ともに減少」(大洲・百貨店)、「食料品や生活用品の価格上昇に伴い、個人消費の低迷が続く見込み」(金沢・商店街)、「特に高級品の販売が不振で、割安感のある商品に人気が集まっている」(京都・商店街)とのコメント、サービスからは、「来客数は前年並みだが、売上は減少傾向」(鎌倉・食堂・レストラン)、「消費者の節約意識に加え、低料金店との競合による売上の減少を懸念」(上越・理容業)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 3月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	急激な円高に対する不安
4月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	暫定税率失効の影響
5月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「公共工事の減少に加え新規受注もなく、一方で仕入価格が高騰しており採算が悪化」、「県内の大手企業倒産の影響により、下請業者の収益確保は困難な状況」（ともに一般工事業）、「鉄等の材料価格の高騰は下請業者にはかなり厳しく、採算の悪化に伴う倒産の増加が予想される」（建築工事業）、「暫定税率期限切れの影響による公共事業の発注は依然として遅れており、先行きが不安」（土木工事業）といった声が寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原材料価格に加え、包装資材価格の高騰も続くなど、厳しい状況」（パン・菓子製造業）、「消費の低迷や輸出の減少により、売上が悪化」（織物製造業）、「製材製品の売上悪化に加え、梅雨時期には需要はさらに減少する見込み」（製材木製品製造業）、「原材料価格の高騰分を価格転嫁できず、採算が悪化」（紙製造業）、「取引先の大手企業から減産の指示があるなど、より一層、厳しい状況」（陶磁器製造業）といった声が寄せられている。
卸 売	業況D I、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「建設工事の受注減少に加え、金属・鉄鋼製品価格の上昇が続き、建築関連の中小卸売業は先行きの見通しが立たない状況」（各種商品卸売業）、「中国製冷凍食品問題の影響で、国産品の価格が高騰し、業界は混乱している」、「食品加工物の値上げに対し、売上は減少するなど厳しい状況」（ともに農畜産水産物卸売業）といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iはほぼ横ばい、売上D I、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「特に食品の仕入価格が急激に上昇しており、収益の減少を懸念」、「仕入価格の上昇と売上の減少による採算の悪化に伴い、人員削減を実施」（ともに百貨店）、「ゴールデンウィークまでは売上を確保できたが、その後は対前年比で大幅に減少」、「大型店の進出により、特に土日の来客数が減少」（ともに商店街）、「原油や食品価格の高騰に伴い、今後も消費の低迷が続く見込み」（その他の小売業）といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは3カ月連続、売上D I、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「大型店の相次ぐ進出により外食産業も影響を受け、売上が悪化」（食堂・レストラン）、「食材や包装容器の値上りに伴う採算面の厳しい状況は、当面続く見込み」（喫茶店）、「売上の減少が続き、休業・閉店する店舗が増加」（他の一般飲食店）、「ゴールデンウィークの宿泊数は昨年比に比べ低調、今後も厳しい状況が続く見込み」（旅館）、「諸経費の増加に伴い値上げを実行した結果、来客数が減少するなど、収益の確保は難しい状況」（公衆浴場）といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、中国では低水準で推移する一方、他の7ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

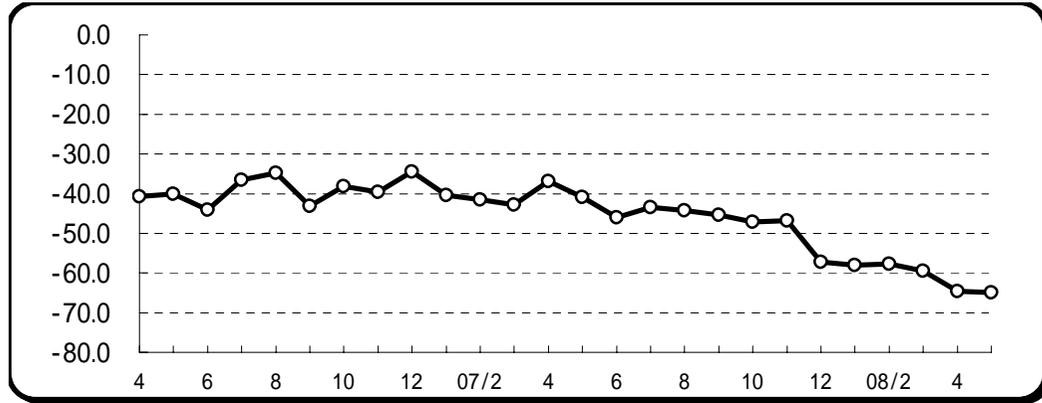
ブロック別の向こう3カ月（6月～8月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。また、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

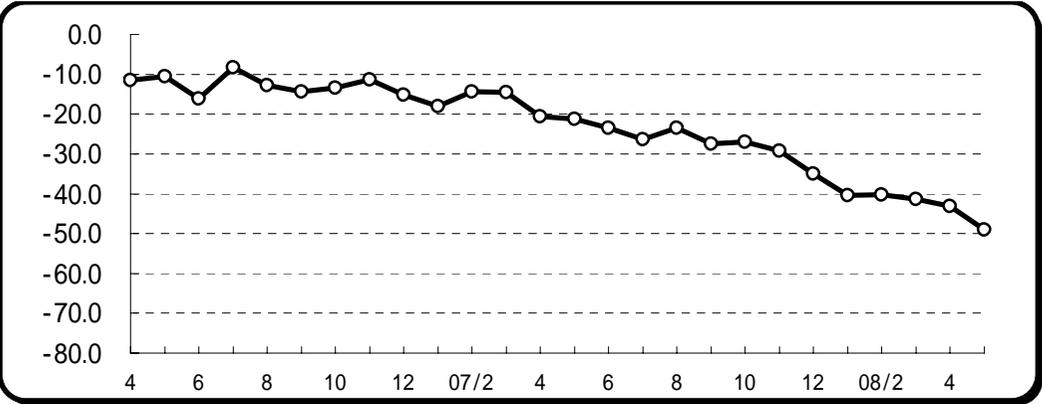
	07年 12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	40.8	47.9	47.5	46.9	50.4	52.9	48.2 (23.2)
北 海 道	41.7	50.4	49.5	52.5	55.0	56.7	52.1 (31.4)
東 北	44.7	49.3	48.6	53.0	54.3	51.3	50.0 (28.9)
北陸信越	40.6	48.8	50.0	41.9	47.6	52.4	41.7 (17.2)
関 東	39.1	44.8	43.2	44.1	46.5	51.2	45.9 (14.6)
東 海	37.0	40.8	48.7	42.6	45.8	47.8	50.6 (26.3)
近 畿	43.4	54.2	53.4	54.1	49.6	55.2	48.4 (24.3)
中 国	42.6	54.5	53.0	50.4	62.0	57.1	50.4 (31.8)
四 国	37.3	44.4	40.6	44.4	50.4	54.2	55.7 (33.6)
九 州	42.7	46.2	45.6	43.3	53.1	53.5	46.5 (20.8)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

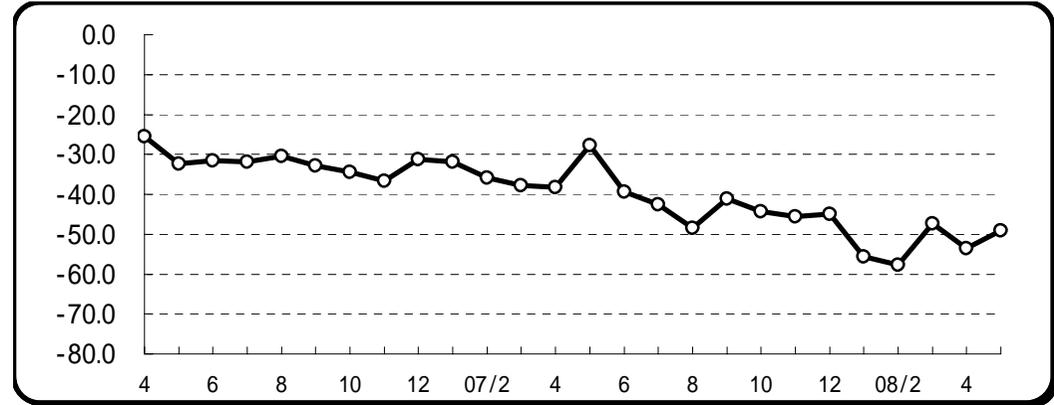
建設業



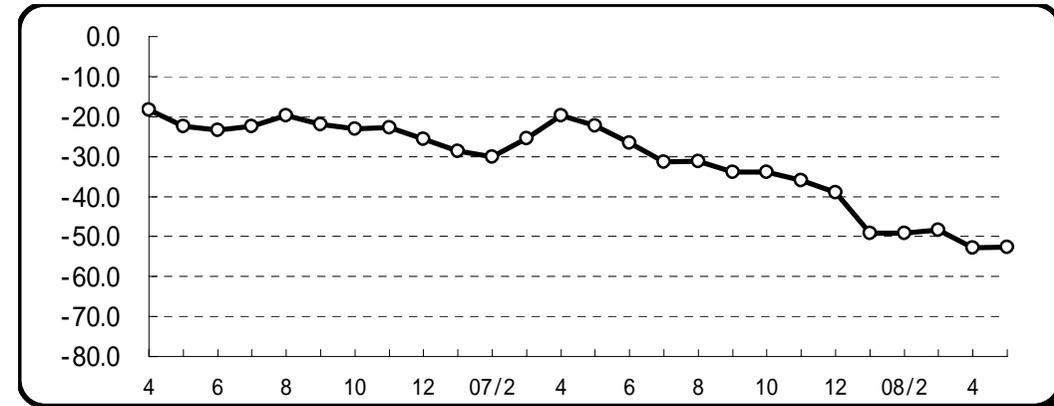
製造業



卸売業



小売業



サービス業

